

## 知財人財育成研究分科会セッション

### ◆事業人財の知財化、知財人財の事業化 ～知財関連人財の拡がりに期待する～◆

#### 【パネリスト】 (敬称略:五十音順)

浅見正弘 (富士フイルム(株) フェロー)

池村 治 (味の素(株) 理事・知的財産部長)

井上二三夫 (シスメックス(株) 知的財産本部長 兼 知的財産部長)

三品岩男 (弁理士、知財開発研究所代表社員)

<モデレータ> 妹尾堅一郎 (本分科会担当理事、NPO 法人産学連携推進機構 理事長)

<総合司会> 中村正之 (本分科会幹事長、DNP テクノリサーチ エキスパート)

#### 【内容】セッションの問題意識・背景

日本企業の産業競争力・事業競争力が強くなるために、「知財関係者」はどれほどの寄与ができていのだろうか? これが本セッションの基本的な問題意識である。

第一に、知を経営資源として見たとき、その調達・蓄積・運用・活用する戦略立案とそれを実行できる人財はどれほどいるのだろうか? 例えば、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源・事業資源にはそれぞれ高度なマネジメントが求められ、役員クラス(例えばカネはCFO)がしっかり戦略立案と実行について責任が課せられている。図式的に描けば、ヒトやカネの管理活用については、次のようなレベルが複層化している。

・ヒト:出勤管理 ⇒ 勤労管理 ⇒ 人事管理 ⇒ 人財戦略(調達・蓄積・運用・活用) 担当:CHO

・カネ:出納管理 ⇒ 会計管理 ⇒ 経理管理 ⇒ 財務戦略(調達・蓄積・運用・活用) 担当:CFO

だが残念ながら、現在、経営資源としての知について、その調達・蓄積・運用・活用を大所・高所から戦略的に扱っていることは稀であり、ヒトやカネにおける戦略と同等レベルの活動を展開している企業はほとんどないのではないか。すなわち、人事部門や財務部門と同様に、「知という事業資源の(ソーシング&ディベロップメント)マネジメント」等を担っている、あるいはそこに貢献している知財部門・知財人財はほとんどないのだ。

第二に、その一方で、(役員を含め)事業関係の人々に「知という事業資源の(ソーシング&ディベロップメント)マネジメント」に関する啓発をしっかりと行っている知財部門は、どの程度あるのだろうか? カネに関して、経理部のみがコスト意識を持っているわけではないのと同様に、知に関して知財部門以外の従業員もそのマインドを持っている必要があるはずだ。事業系の人々に知財マインドを、知財系の人々に事業マインドを!

今年の分科会セッションでは、「事業人財の知財化、知財人財の事業化」と称して、多少大上段に、このような問題について忌憚のない議論をしてみたい。

#### 【パネリスト・モデレータ略歴】

##### 浅見 正弘 (あさみ まさひろ) 【富士フイルム株式会社 フェロー】

日本知的財産協会副会長、日本化学会監事、日本工学アカデミー正会員。1980年東京大学大学院理学系研究科化学専攻課程修士修了、同年富士写真フイルム株式会社入社、足柄研究所にて感光材料の開発研究に従事、2004年デジタル&フォトイメージング材料研究所副所長、2006年知的財産本部長、2008年執行役員、2009年先端コア技術研究所長、2013年取締役執行役員R&D統括本部長、2015年知的財産本部長、2017年より現職。文部科学省国立研究開発法人審議会委員、物質材料研究機構部会副部長、科学技術振興機構さきがけ・CRESTで領域運営アドバイザー等を務める。専門は無機溶液化学、材料科学全般だが、現在はフェローとして経営における技術戦略、知財戦略を担当。

## 知財人材育研究分科会セッション

### ◆事業人材の知財化、知財人材の事業化

### ～知財関連人材の拡がりに期待する～◆

#### 池村治 (いけむら おさむ) 【味の素株式会社 理事 知的財産部長】

日本知的財産協会常務理事、AIPPI 業務執行理事、産業構造審議会 知的財産分科会 不正競争防止法小委員会委員。京都大学大学院薬学研究科修士課程を修了後、1987年、味の素株式会社入社。中央研究所にて医薬品の探索研究、製法開発研究に従事。労働組合の研究所支部長を経て、労働組合専従(中央執行委員)。復職後、英国子会社にての臨床開発研究の後、本社医薬事業開発部にて糖尿病薬開発のプロジェクトマネジメントを経験。その後、人事部門、工業化部門、生産部門を経て2014年7月、現在の知的財産部門に異動。2015年4月に東京理科大学専門職大学院イノベーション研究科知的財産戦略専攻入学、2017年3月修了。

#### 井上二三夫 (いのうえ ふみお) 【シスメックス株式会社 知的財産本部長】

日本知的財産協会副理事長、(一社)兵庫県発明協会理事、(一社)ブランド戦略研究所理事。(一社)日本分析機器工業会 知的財産委員会委員長。岡山大学理学部物理学科を卒業後、ミノルタカメラ株式会社(現コニカミノルタ株式会社)に入社・特許部に配属。Georgetown 大学などで英語を学び複数の米国法律事務所にて米国知財の実務に従事。米国特許弁理士試験合格。その後、シスメックス株式会社に転職し、現在に至る。日本知的財産協会では、知財マネジメント委員会副委員長、常務理事、副理事長として活動し、知財人材育成に関する論説の執筆や講演活動を行う。社内では「経営に資する知財活動」「世界一の知財活動」を合言葉に、知財プロフェッショナル人材育成のプログラム構築と実践、また、事業・研究・開発に従事する全社員に対する知財マインドアップに向けた教育活動を継続。

#### 三品岩男 (みしな いわお) 【合同会社知財開発研究所代表社員、弁理士】

東京理科大学理学部物理学科卒。東京理科大学専門職大学院総合科学技術経営研究科(MOT 専攻)修了。中小企業勤務中に弁理士資格取得。村田特許事務所勤務後、三品特許事務所設立。事務所合併により湘洋内外特許事務所を設立しパートナーに就任。特許業務法人湘洋内外特許事務所へ改組後、社員に就任。同所退任後、現職。また、現在、神奈川大学工学部情報システム創成学科、東京理科大学工学部機械工学科、及び、東京理科大学大学院(工学研究科、理学研究科、基礎工学研究科)各非常勤講師。2017年2月まで東京理科大学大学院イノベーション研究科客員教授。

#### 妹尾堅一郎 (せのお けんいちろう) 【特定非営利活動法人 産学連携推進機構 理事長】

一橋大学大学院商学研究科 MBA 客員教授、日本知財学会理事(本分科会担当)。慶應義塾大学経済学部卒業後、富士写真フイルム株式会社勤務を経て、英国国立ランカスター大学経営大学院博士課程満期退学。産業能率大学助教授、慶應義塾大学大学院教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授、九州大学客員教授等を歴任して現職。現在も東京大学や一橋大学で大学院生を指導。CIEC(コンピュータ利用教育学会)前会長、研究・イノベーション学会参与(前副会長)。内閣知的財産戦略本部専門調査会前会長。現在も農水省技術会議委員ほか、多くの省庁委員や大手企業役員を兼務。ビジネスモデルと知財マネジメントに関する研究と教育を続ける。著訳書多数。中でもベストセラーになった『技術力で勝る日本が、なぜ事業で負けるのか』は題名が流行語にもなった。平成20年度 産業財産権制度関係功労者表彰 経済産業大臣表彰。

以上